

公明党

代表 山 口 那 津 男 様

要 望 書

令和4年3月6日

福島県南相馬市長 門 馬 和 夫

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の発生から間もなく11年が経過しようとしており、これまで本市は、住民が安全・安心に住み続けることのできる環境を取り戻すため、総力を挙げて復旧・復興事業に取り組んでまいりました。

しかしながら、今なお、風評等の影響は大きく、旧避難指示区域である小高区においては、住民の帰還が進んでいない状況もあるなど、復興から発展に向けた取組をより一層加速しなければならないと考えております。

このことから、本市は、福島イノベーション・コースト構想を最大限活用したまちづくりを展開していく考えであり、その中でも国が整備方針を示す国際教育研究拠点については、本市のみならず、浜通り、福島県の創造的復興の原動力として、大きく期待をするものであります。

については、国際教育研究拠点の立地場所について、次のとおり要望をいたします。

記

- 1 国際教育研究拠点の立地場所については、福島イノベーション・コースト構想の効果が最大化し、浜通り、福島県さらには東北の復興にとって、最も波及効果の大きい地域に設置すること。
- 2 浜通り北部はロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連などの新産業創出分野、浜通り南部は廃炉・放射線などの原発事故対応や環境回復分野を担う人材、企業等が現に集積され始めていることから、既存施設とのより一層の相乗効果が期待できる地域に設置すること。